

所 報

1997年1月から12月末までの期間における社会科学研究所の主な活動は、以下のとおりである。

一 機構および人事

(一) 所員総会

1 第69回定例所員総会 (1997.5.31, 神田校舎13A会議室)

議事 (1)定例所員総会資格確認。(2)石村修所員を議長に選出。(3)水川侑所長挨拶。(4)新委嘱所員5氏の紹介。(5)運営委員会・事務局(1997-1998年度)の構成確認。運営委員会委員:水川侑(研究所長),松浦利明(経済学部),小沼堅司(法学部),池本正純(経営学部),大西勝明(商学部),福島義和(文学部),矢吹満男(事務局長),澤野徹(前事務局長)の各所員以上8名。なお,会計監査委員は平川東亜所員。事務局員:矢吹満男(事務局長),村上俊介・平島真一(財政担当),野口旭・溝田誠吾・白藤博行(研究会担当),黒田彰三・河東東雄・川村晃正・平田和一(編集担当),狐崎知己・町田俊彦(文献資料担当),吉田雅明・野口旭(パソコン担当)各所員以上13名。

議題 (1)新所員委嘱について。(2)1996年度事業報告ならびに会計報告について。(3)1997年度事業計画案ならびに予算案について。以上については,事務局各担当より報告がなされ,承認された。

2 第70回定例所員総会 (1997.11.29, 神田校舎13A会議室)

議事 (1)定例所員総会資格確認。(2)松浦利明所員を議長に選出。(3)水川侑所長挨拶。(4)1997年度事業経過報告ならびに会計経過報告(事務局各担当より),了承。

議題 (1)1998年度事業計画案について。(2)1998年度要求予算案について。以上については原案通り可決された。

(二) 所員の移動

1 新所員の委嘱

運営委員会の議を経て,稻田十一(経済学部),中西泰夫(経済学部),福島利夫

(経済学部)、丹沢安治(経営学部)、坂本重雄(法学部)の5氏が、所長より新所員として委嘱された。

2 所員の逝去

工藤達男所員が4月1日に、曾我英雄所員が5月13日にご逝去された。慎んで哀悼の意を表します。

3 研究参与の委嘱

青木弘明、佐藤博、熊野剛雄、吉田震太郎の4氏に4月1日付けで研究参与を委嘱した。

4 所外研究員の委嘱・解職

江口英一氏は、2年間継続の意思が確認できなかったため所外研究員を解職した。青木純一氏(商学部非常勤講師)に7月1日付けで所外研究員を委嘱した。

5 特別研究員の委嘱

大島久幸氏(日本学術振興会特別研究員)に4月1日付けで特別研究員を委嘱した。

以上により、1997年11月29日現在の所員は156名、研究参与23名、所外研究員7名、特別研究員1名であった。

6 運営委員の交替

運営委員である小沼堅司氏が法学部長に就任されたため、9月1日付で石村修(法学部)に交替した。

二 研究調査活動

(一) 定例研究会

(1) 5月17日(土)11時～神田校舎8C会議室

テーマ 「資金循環統計の見直しについて」

報告者 萩野 覚氏(日本銀行調査統計局)

(2) 6月5日(木)4時30分～生田校舎社研

テーマ 「都市周辺部における土地利用

—日本、英国およびオランダの比較研究—」

報告者 森 宏 所員

討論者 黒田彰三 所員

司 会 酒井 進 所員

- (3) 6月28日(土)11時～神田校舎13A会議室

テーマ 「無償労働の推計について」

報告者 佐藤勢津子氏 (経済企画庁経済研究所環境経済計算調査官)

作間逸雄所員

◎「国民経済計算の研究」グループとの共催

- (4) 7月5日(土)1時～神田校舎社研分室

テーマ 「日本の技術の現状と課題—日本の生き残りのために—」

報告者 柴田治呂氏 (新技術事業団国際交流促進室長)

テーマ 「東アジア諸国の産業技術の現状と今後の課題」

報告者 北村かよ子氏 (アジア経済研究所主任調査研究員)

◎特別研究「情報革新と産業・企業経営のニューウェーブ」グループとの共催

- (5) 11月6日(木)2時～生田社研

テーマ 「冷戦帝国主義の解体と20世紀末資本主義」

報告者 二瓶 敏所員

- (6) 12月26日(金)2時～生田社研

テーマ 「日本半導体産業の現況」

報告者 大西勝明所員

テーマ 「最近の日本自動車産業の動向」

報告者 水川 侑所員

(二) 特別研究会

夏期合宿集中研究会

1 研究会

日 時 7月22日(火)午後2時～5時

場 所 京都産業会館

テーマ (1)京都の産業・企業の動向

「京都の産業の動向とベンチャー企業について」

龍不可止氏 (京都商工会議所産業調査課長)

「京都企業の海外進出の特徴」

和田政昭氏 (京都商工会議所商工振興部国際室長)

(2)「小さな」世界企業—21世紀型の中小企業—をめぐって

問題提起……溝田誠吾所員

「『小さな』世界企業の数量的把握について」

宮崎信二氏 (名城大学短期大学部)

「『小さな』世界企業の戦略と組織」

塩見治人氏（名古屋市立大経済学部）

2 企業調査 7月23日(木)午前9時～午後4時

(1)進工業(株) 午前9時～12時

独自の薄膜技術

(2)タキイ種苗(株) 午前1時30分～4時

世界初のハイブリッド種子を開発したバイオ企業

24日(木)午前9時～12時

(3)イシダ

世界の計量システムメーカー

(三) グループ研究助成

下記の4件(1)～(4)を継続して助成したほか本年度は助成A1件(5)、助成B1件(6)を新たに助成した。助成額は助成Aは50万円、助成Bは20万円とした。なお研究助成Aに対しては、グループのうち1人以上の所員が、当グループが定めた共通テーマに関連する個別テーマで、本研究所が指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表する義務が課されている。

(1) 「情報ネットワーク社会における社会科学的研究の方法」('95年度発足、以下同じ)

(原田〈責〉・宮本・望月(宏)・野口・山中・吉田(雅)の6所員)

(2) 「イギリスの保守主義」

(福島(義)〈責〉・浅見・石塚・黒田・作間・前田(政)・毛利の7所員)

(3) 「21世紀における日本の社会経済システムの在り方」

(宮本〈責〉・正村・鶴田・吉家・吉岡・宮下・松田・中島・小島・原田・玉垣・八林・山田・矢吹(芳)・山中・真殿・大倉・加藤(浩)・寿崎・小口・大林・関・徳田の23所員)

(4) 「アジアにおける平和保障」('96年度発足)

(石村〈責〉・野村・隅野・木幡・樋口・矢吹(芳)・岡本(篤)・森川・内藤の9所員)

(5) 「国民経済計算の研究」('97年度発足)

(作間〈責〉・田路研究参与・佐藤(博)研究参与・福島(利)・大林・野口・大倉・望月(宏)・桜井・原田の10所員)

(6) 「半導体メーカーの経営戦略とコストパフォーマンス」

(夷谷〈責〉・赤羽の2所員)

四 個人研究助成

本年度は以下の3件の助成をした。助成額は1件15万円とした。なお、個人研究助成には原則として交付年度より起算して3年以内に本研究所在指定もしくは承認した公表誌にその研究成果を公表する義務が課されている。

- (1) 大西勝明所員「日本ソフトウェア産業の現状についての一考察」
- (2) 小口登良所員「国民年金の世代会計分析」
- (3) 吉国恒雄所員「ジンバブエにおける都市社会運動・労働運動の歴史」

五 特別研究助成

本年度は下記の3件(1)～(3)を継続して助成し、新たに1件(4)を助成した。

- (1) 「情報革新と産業・企業経営のニューウェーブ—1980年代以降を中心に—」
(溝田〈責〉・大西・黒岩研究参与・水川・田口(冬)・矢吹(満)の6名)('96年度発足 以下同じ)
- (2) 「日本人の食料消費—コーホート分析」
(森〈責〉・朝野・松浦・渡部・河東・田中正光氏の6名)
- (3) 「社会分析を目指す新しい思考のフレームワークを構築するための学際的理論研究」
(吉田(雅)〈責〉・金子・嶋根・高萩・下斗米・矢沢(清)・青木(憲)の7名)
- (4) 「国際化する環境リスクの民事法的制御および行政法的制御の可能性」('97年度発足)
(矢沢〈責〉・坂本・田口(文)・小野・平田・白藤の6名)

三 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

- 1月(403)号 斎藤秋男「武漢・“陶行知研究”国際シンポジウム参加報告」
- 2月(404)号 加藤博文(日本学術振興会特別研究員)「石器時代の象徴交換試論」
- 3月(405)号 石渡貞雄「占有資本主義論—現代資本主義理解のために—」
- 4月(406)号 石渡貞雄「唯物史観の『公式化』と現代資本主義」
- 5月(407)号 吉国恒雄「アフリカ資本主義への一つの道—ジンバブエ・新興黒人大農民についての試論」
- 6月(408)号 檀国大学・専修大学共同セミナー「日韓関係の現状と将来」
- 7月(409)号 池本正純「後決め・事後調整の問題点」

- 8月(410)号 ベトナム視察特集号
 9月(411)号 溝田誠吾「航空機産業のグローバル競争」
 10月(412)号 高梨健司「養蚕業＝耕地桑園化と零細耕作農民の動向」
 11月(413)号 八林秀一「職業教育と資格－ドイツのデュアル・システムを考える」
 12月(414)号 溝田誠吾「小さな世界企業の独自技術と経営者」

四 その他の活動

(一) 文献資料の収集と整理

文献資料の整理・製本

- (1) ① 社会科学分野にかかわるリファレンス資料に相当するもの（辞書、統計、白書、年鑑など）の収集に重点を置く、②CD-ROM、ビデオ版の文献資料を積極的に収集する、という方針に基づいて、文献資料を収集している。
- (2) 高額の資料としては、所員の希望に基づき下記の2点を購入した。
 - ① CD-ROM版マルクス＝エンゲルス全集 for Windows（大月書店）
 - ② 近代日本社会運動史人物大事典（日外アソシエーツ）

文献資料の整理

- (1) 森下文庫（森下澄男氏により寄贈のあった繊維関連資料270冊）の整理は本年度中に終える予定。電動書架の導入に伴い実施してきた文献資料の抜本的整理は、配架方針づくりを除いては、一応完了した。リファレンス資料に相当するものは極力、書架の前面に配架した。CD-ROM版の文献資料は、ロッカーに別途保管した。

その他

事務局パソコン担当が主催したパソコン講習会（11月18日）のプログラムに「社研保有CDデータ紹介」を盛り込んだ。

(二) パソコン講習会の開催

データの効率的な入力およびコンバート、インターネット等についての講習会（講師：石塚良次所員）を11月18日に行なった。

（文責：矢吹満男）